



県総体壮行式

「挑戦するということ」

教頭 山崎 誠



今年、隠岐の島ウルトラマラソン50kmに2度目の挑戦をした。それは、敗者のいない大会で、それぞれに自分なりのゴールやあらたなスタートが見つかった大会でもあったように思う。

私は長距離走が昔から苦手で、これまでこうしたマラソン大会に出たことはほとんどない。50歳を超えて自分の人生を見つめ直した時に、あえて自分の苦手なことに挑戦することで、あらたな自分を見出したいと思ったのが、昨年参加したきっかけであった。昨年50kmを完走できた時に見えた風景、それは挑戦することでしか見られない風景であった。かれこれ30年以上前、1日3～4時間しか寝ずに勉強をした浪人生活ののち、志望校の合格通知をもらった時に見た風景に少し似ていた気がする。

挑戦するにはそれ相応の準備がいる。その準備、つまり練習が、今年は転勤等もあり十分にできなかった。日照り無風という悪条件も重なった。ただでさえ起伏の多い山道ばかり走る。湿度が高かったせいか古傷の膝も痛み出し、思うように膝が曲がらなくなった。いい訳は沢山あった。「リタイヤしても自分にも人にも言い訳ができる。しかし、言い訳も乗り越えたら矜持となる。」何度も自問自答しながらの50kmであった。気が付くと、制限時間まであと少しでのゴールだった。少し風景が違って見えた。昨年同様「克己」と書かれたTシャツを着て走ったが、少しはその言葉の意味を果たせたかと思う。

2度目の挑戦を成功へと後押ししたものの。それは、沿道の応援やサポート、同じランナーの励ましであった。頑張っているのに「頑張れ」と言われるのはつらいと言う人もいる。しかし、心からの「頑張れ」は自分にとってすべてがエネルギーになった。それを素直に受け入れることができたのは、しんどさがピークだったこともある。あくまでも主体的に望んだしんどさである。させられたしんどさは苦しみでしかない。成功する人の一番の要素は、人の意見を聞き入れる素直さだと聞いたことがある。そんな気持ちに、隠岐の人々のぬくもりや気遣いがさらにさせてくれた。沿道を埋め尽くす応援、そして公式の給水所とは別の、たくさんの私設の給水ポイント。そこには、ランナーのために冷えたタオルやエアースロンパス、手作りのおにぎりやお菓子、冷えたスイカ……いろんなものが用意され、沿道の子どもや大人がそれを手にして待っていてくれた。ランナーの精神状態や疲労度を押し量りながら、その人のためにどんな声掛けがいいか何をしてあげればいいのか、隠岐の人たちが考えて応援し、サポートしてくれていた。

ゴールまであと数キロとなると、沿道から「おかえりなさい」というエールをもらった。とても心地よかった。隠岐に2度目の赴任した時も、今回2ヶ月ぶりに隠岐を訪れた時も、そういえば、出張で本土から隠岐に戻った時も、会うたびに同じ言葉をもらった。この言葉一つで、結果はどうあれ、たとえ失敗しても最大限の応援やサポートをしてくれる、必ず受け入れてもらえるところがあるという安心感やぬくもりを感じた。

学校の勉強も受験や部活動も同じかもしれない。一生懸命頑張る姿に周囲は感動をもらう。頑張る人も、応援してくれることをあたりまえと思わず感謝をする。そして応援を励みにさらに頑張る。それが大事かと思う。応援してくれるのは、仲間であり、教員であり、地域であり……一番は保護者、家族。「おかえりなさい」と言ってもらえる安心できるいろんな場所があるからこそ、挑戦できる。

隠岐の島ウルトラマラソンでは、感動と感謝の渦が島を一周することで、島全体でその気持ちを共有できるイベントである。先日の総体では、それと似たことを学校で、そして各地の会場で味わった。

助け合い、励まし合い、支え合い、認め合い……松江東高校は、隠岐と同じで、それが自然にできている学校だと感じている。たくさんの挑戦をし、夢の実現をしていくなかで、過程も結果も、輩（ともがら）同士で、師弟同行で、家族で共有できればこれほど嬉しいことはない。

県総体・インターハイ

ボート部

～インターハイ出場チームによる、県総体報告～

県総体は一年の中で一番大切な大会である。選手・顧問だけでなく、学校全体が総力をあげて戦う、唯一の大会である。

今年のチームは絶対的エースが不在であったが、チーム内での力の差が拮抗しており、誰がどのクルーとなっても対応できるチームとなった。今年の県総体は全種目制覇という目標を掲げた。

結果は男子クォドルプルと女子ダブルスカルで2位となり、惜しくも目標を達成することができなかったが、その他の4種目で優勝を勝ち取ることができた。難しいレースであったが、どのクルーも粘り強く漕いでくれた。選手達はそれぞれの想いを込めて全力を出し切ることができたと思う。今回はすべてのレースにドラマがあり、見る人に感動を与えてくれた。人に感動を与えることができる選手に成長してくれたことが何よりも嬉しかった。

選手達には、この県総体でチーム一丸となって挑んだ経験を人生の宝としてほしい。インターハイに出場するクルーは島根県代表として誇りを持ち、入賞という目標を達成してほしい。

(ボート部顧問 佐藤秀人)



アーチェリー部

6月3日(土)本校を会場に県総体が行われました。

本校からは、女子団体・個人、男子個人に参加しました。女子個人では大会新記録(564点)など、先につながる好結果が出ました。中でも2年生の成長が大きく、ほとんどの選手が自己ベストを更新することができました。来年はさらにレベルの高い試合が期待されます。

結果、インターハイには、女子団体・男子個人に出場権が与えられました。

先日行われた中国大会では、総体で大会新記録で優勝した3年生若槻歩夢さんが第4位に入るなど、全国でも戦える手ごたえを感じることができました。

これからもチーム内で切磋琢磨し、全国で勝ち上がれるチームを目指して頑張ります。応援よろしくお願ひします。

(アーチェリー部顧問 柏木哲也)



剣道部

県総体・インターハイ

今回の大会は3年生にとって最後の県大会だった。この大会を目標に3年間稽古を積み重ねてきたという意味でも、いろんな思いが詰まった大会となった。

初日は団体戦から始まった。どの試合も楽な試合はなく、一戦一戦が緊張感のある試合となった。結果は男子がベスト8、女子が準優勝だった。

2日目は個人戦だった。個人戦だったがチーム全員で戦おうと前日のミーティングで話し合った。その結果、尾嶋舞さんが準決勝戦まで勝ち進み、全国大会まであと一勝という試合の中、後半に見事な引き面が決まった。残り時間は1分から2分。足を止めないように、守りに入らないよう必死に戦った。そして試合終了のブザーが鳴り、ついにインターハイの出場権を獲得することができた。この時に感じたのは応援や役員など東高校の生徒が団結できていることだった。試合が終わった後で自分のことのように嬉しいと言ってくれた生徒もいた。このように喜びを共有できる仲間、そしてメンバーで戦えて本当に良かったと感じた。

今回は目標だった団体戦でインターハイ出場はできなかったが、尾嶋舞さんの活躍で自分達も全国大会に行きたい、行けるんだ、ということ強くイメージできた。後輩達は先輩達の姿を見て感じたことを忘れず、先輩を越えられるようこれからも一層稽古に励んでもらいたい。

そして、尾嶋舞さんには、インターハイという最高の舞台上でも多く勝ち上がり、松江東高の名を全国に広めてほしい。

(剣道部 顧問 福田誠治)



この他、外部競技として活動しているボクシングや体操等もインターハイに出場します！



総体期間中は、総体応援メニューが食堂に登場し、大にぎわいでした！



☆H29年度 県総体結果! (5/26~28・6/1~4)

男女総合 4位

※男子総合 4位 女子総合 6位

・ボート部	男子1位	女子1位
・アーチェリー部	女子1位	
・剣道部	男子6位	女子2位
・ハンドボール部	男子3位	女子3位
・バスケットボール部	男子2位	女子2位
・サッカー部	男子5位	
・テニス部	男子4位	
・ソフトテニス部	女子8位	
・水泳	男子6位	
・ボクシング	男子2位	など



歴代3番目の好成績!

よろしく
お願いします!

☆前期生徒会紹介

《前期生徒会執行部メンバー》

※敬称略

- ・生徒会長: 宮本太陽(23R)
- ・副会長: 西村ふうあ(26R)・山尾駿介(26R)
- ・書記: 大野隼(21R)・高宮美穂(25R)
- ・会計: 高木茉緒(21R)・津森駿佑(25R)



東雲祭分団決めの様子

7月 行事予定

- 3日 外務省「高校講座」
- 4日 球技大会
- 5日 企業訪問(2年文系)
- 6日 企業訪問(2年理系)
- 7日 進研模試(3年~8日)
- 8日 土曜講座
- 11日 地区高体連(バレー)
- 12日 ETC③
- 13日 進研模試(1, 2年)
- 20日 保護者面談(~28日)
- 21日 1学期終業式
- 24日 夏期講座(~28日)
- 30日 合同企業セミナー

8月

- 1日 オープンスクール
- 7日 夢チャレ(~10日)
- 17日 2学期始業式
- 18日 全統マーク(3年~19日)
- 19日 全統模試(1, 2年)
- 31日 東雲祭①(文化祭1)

9月

- 1日 東雲祭②(文化祭2)
- 2日 東雲祭③(体育祭)
- 4日 振替休日
- 6日 ETC④<月曜時程>
- 8日 全統模試(3年~9日)
- 15日 進研マーク(3年~16日)
- 21日 試験発表
- 28日 2学期中間試験
(~10月3日)

充実した行事がいっぱい!!

島根県立松江東高等学校

〒690-0823 島根県松江市西川津町510番地
TEL: 0852-27-3700(代表) FAX: 0852-27-3703
HPアドレス <http://www.matsuehigashi.ed.jp/>

学校だより「EAST NEWS」(カラー版)はホームページにも掲載しています。バックナンバーもありますので、ぜひご覧ください!!



編集・発行 松江東高校総務部